売れる新品種きのこの育種と高付加価値栽培技術に関する試験・研究開発（R1～R5）

青森県産業技術センター
林業研究所

⑧

現状と課題

・青森県のきのこ生産量は636トン（全国40位）と少ない
・価格競争や生産資材等の高騰で、中小生産者は厳しい経営環境
・県内で最も生産者が多いシイタケでは、近年、大手企業の参入により価格の下落等の影響が懸念

➡大手企業の商品と差別化でき、優位性のあるきのこが求められている

・近年、きのこの持つ生理活性効果に注目が集まっている

有用成分による高付加価値化で、単価向上が期待できる

➡品種や栽培方法による成分量変化の根拠が必要

成分に着目した新品種開発
高付加価値栽培技術の開発

試験・研究内容（R３）

1　売れる新品種きのこの育種

成分に優位性があるシイタケ等きのこ品種の作出

- ビタミンD量で選抜したシイタケ野生株同士を交配、交配株の選抜

シイタケ野生株の栽培

ビタミンDの抽出

2　高付加価値栽培技術の開発

培地や栽培方法で成分を増加させる栽培技術の開発

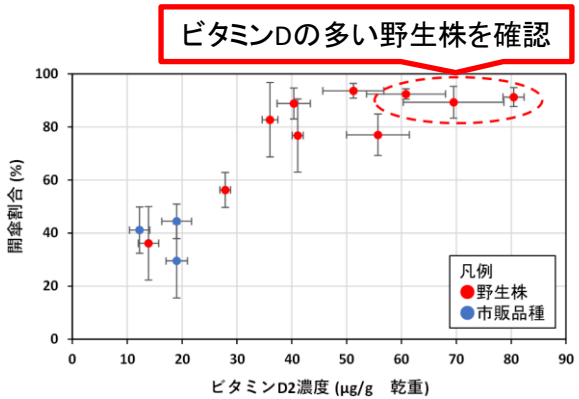
- アラゲキクラゲ、シイタケにおいて栽培中の紫外線照射がビタミンD量に与える影響を調査
- リンゴ剪定枝、ホタテ貝殻粉末、ナタネ搾りかすを添加した培地で栽培したきのこの遊離アミノ酸量（体の構成や健康に重要な成分）を調査

ナタネ培地での
タモギタケ栽培

ブラックライトによる
紫外線照射

主な成果（R2まで）

- シイタケ野生株のビタミンD量の分析結果から菌株を選抜し、交配に向けて準備



シイタケのビタミンD濃度と傘の開き具合の関係

- リンゴ剪定枝培地で栽培したアラゲキクラゲで増収を確認
- ナタネ搾りかす培地でタモギタケ栽培が可能であることを確認

目指す成果

成分に特化した品種の作出
成分を強化する栽培技術の開発

他県産商品と差別化でき消費者に選ばれる
オールあおもり産のきのこの開発